



Woodwind Syllabus

2018–2021

**木管楽器
受検要項
(参考抄訳)**

この冊子の使い方

この要項(シラバス)は、指導者、受検者、保護者の、ABRSM 木管楽器検定受検準備のために書かれています。

このシラバスと共に、次の二冊も大切な資料です。

- ・ 検定規定集—毎年、発行されます。
- ・ **Your guide to ABRSM music exams** (英国王立音楽検定受検の手引き)—受検者、指導者、保護者の為の実用的なアドバイスが満載。

これら、二冊と共に、シラバスは、ABRSM 検定全体を網羅するものです。以上3つの冊子は、ABRSM 日本代表事務局で入手可能です。又、英国公式サイト (www.abrsm.org) からも、ダウンロードできます (いずれも無料)

各楽器の課題曲は、グレード別に本文に掲載されています。その他の課題については各科目の項をご覧ください。(要項の科目別の有効期限についても)

2018–2021 年 新シラバス

このシラバスには、(ソプラノ/アルト) リコーダー、フルート、オーボエ、クラリネット、バスーン、およびサキソフォーンの新しい課題曲、テクニック課題 (スケール、アルペジオ等) 及び初見演奏の出題範囲のリストが掲載されています。

その他の変更点は、以下の通り記載されています。

- ・ グレード 1&2 で、オプションとして、自然的短音階が含まれています。
- ・ オーラルテストの変更点

移行期間として、英国以外の国においては、2018 年の 12 月まで前年度の要項に基づく課題曲での受検が認められています。(テクニック課題等には移行期間はありません。)

このシラバスは、2021 年に新しいシラバスが発行されるまで、有効です。出版に関する細かい変更点などについては、ABRSM の HP で、確認してください。

www.abrsm.org/woodwind

木管楽器実技検定

受験資格：以下の楽器での検定がグレード1-8まで行われます。

リコーダー(デサントリコーダーはG1-5まで)、フルート、オーボエ、クラリネット、
バスーン、およびサキソフォン

受験者は年齢、過去の受験履歴にかかわらず、どのグレードからでも、受験できます。但し、G6以上の受験には理論検定或いはプラクティカル・ミュージシャンシップのG5以上の事前取得が必要です。又、身体的、知的障害のある方々のためには、代替検定や規定が設けられています。

楽器について

リコーダー デサント(ソプラノ)とトレブル(アルト)は各々、別々の要項が用意されています。デサントリコーダーの受験はG1-5までの対応となります。

フルート

G1-3においては、以下のタイプのフルートでの受験が可能です。金属製でなくとも可、および/又は、吹き口にカーブがついていても可。(いずれも実音)

オーボエ

G1-3においては、ジュニア用のオーボエにての受験可。

クラリネット

この要項に掲載されている課題曲の大部分はB♭管用となっています。A管用の曲は要項に出版社が記載されています。

G1-3においては、E♭管或いは初心者用のC管の使用も可能です。この場合、伴奏者は適宜移調すること。課題曲の一部はC管用として伴奏譜と共に課題曲リストに掲載されています。

バスーン

G1-3においては、縮小サイズ(実音より4度又は5度上)の楽器使用が可能です。伴奏者は適宜移調すること。この場合の課題曲の一部は移調された伴奏譜と共に課題曲リストに掲載されています。

サキソフォン

ソプラノ、アルト、テナー、バリトンサキソフォンでの受験が可能です。E♭管とB♭管の課題曲は各々別のリストに掲載されています。その他の課題は共通です。
(中略)

G1-3においては、非金属製の楽器の使用も認められています。

検定の配点

全てのグレードの配点は以下の通りです。

課題曲 1	30 点
課題曲 2	30 点
課題曲 3	30 点
スケール・アルペジオ	21 点
初見演奏	21 点
オーラルテスト	<u>18 点</u>
総合点	150 点

評価の基準: 総合点が 100 点以上で、合格となります。120 点以上はメリット(良)、130 点以上はディステインクション(優)の評価が与えられます。又各セクションでの合格点が必ずしも全体の合格点を示すものではありません。

課題曲

課題曲の選定:

受検者は、課題曲 3 曲を選ぶに当たって、対比とバランスを考慮にいれ、A,B,C 各曲目リストから、1 曲ずつ選曲し、検定員に曲名を告げます。又英文の 149 ページにある曲目リストを使用することも可能です。

伴奏者:

リスト A と B では、練習曲や、無伴奏曲として出版された場合を除き、課題曲の演奏には全て伴奏者が必要です。伴奏者は伴奏の場合のみ受検会場に入ることができます。受検者の指導者は伴奏者になれますが、検定員はいかなる場合でも伴奏をしません。リスト C は全曲無伴奏です。

楽譜について:

課題曲はどの版を使用してもかまいません（但し、要項に特別な編曲版や移調された版の指定がある場合は除く）。譜めくり等の必要上、コピー楽譜を使用する場合をのぞき、完全なコピー楽譜の使用は、著作権上違法となりますので、ご注意ください。

楽譜の解釈: 記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく演奏できるだけでなく、タッチ、音色の使い分け、拍感、細かな表情の変化、フレージングなどが、どのようにコントロールされ、音楽を形作っているか評価の対象になります

リポート: 受検者は *da capo* と *dal segno* に気をつけること。ただし、特に指示がない限り 2.3 小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。

カデンツとトゥッティ：

カデンツは要項に指示されている場合を除き、演奏されません。

コンチェルトやそれに類する楽章を演奏する受検者はあらかじめ伴奏者との編曲により、オーケストラのトゥッティ部分を省いてください。

暗譜について：

暗譜での演奏は任意です。ただ演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。又暗譜での演奏への加点はありません。

譜めくり：

受検者自身の譜めくりによる演奏への影響は、評価に影響しませんが、譜めくりが困難なページが続いた場合には、前述のコピー譜を使用することができます。又グレード6-8に限り、伴奏の譜めくり者を伴うことが出来ます。

コピーについて：

英国の法の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合(譜めくりが極端に困難など)に限り、コピーが認められます。その他の場合においてはコピーをとる前に申請が必要です。この事項において受検者に法を遵守させるのは受検申請者の責任です。万が一検定において違法なコピーが行われていることが発覚した場合、ABRSMは検定結果を保留する権利を有するものとします。

スケールとアルペジオ

検定員は、各グレードの出題範囲において、アーティキュレーションのバランスを考慮しながら、少なくとも1種類のスケール・アルペジオの演奏を指示します。指示内容は

- ・ 調（グレード6-8では和声/旋律短音階の指定を含む）又は開始音の指定
- ・ アーティキュレーション

全てのスケール/アルペジオは

- ・ 暗譜にて、同じ長さの音で演奏すること
- ・ 特に記載されている場合を除き、その調の一番低い主音からはじめること。
- ・ 指定の音域での上行および下行形を演奏すること。
- ・ 不適切なアクセントをつけずに、正確かつ明瞭に演奏すること。

ブレスの扱いについては、受検者の選択にまかされています。

アルペジオとドミナント7は基本形のみとなります。必ず、主音で終わること。

移調管楽器についての、スケールの指示は実音ではなく、表記された調で行われます。(例：B♭管のクラリネットの場合、ニ長調の指示に対して、演奏される音はハ長調のスケールとなります)。

テクニック課題の例題は英文 14-17 ページに掲載されています。

テクニック課題の速度

以下の速度が目安です。(英文 11 ページの表を参照のこと)

初見演奏

伴奏者なしで、行われ、受検者は約 30 秒の予見時間が与えられ、その間、試奏をしても良いことになっています。グレード毎の出題要素のリストは英文 18-19 ページに掲載されています。又全ての木管楽器の初見演奏例題集は ABRSM から出版されています。

オーラルテスト

オーラルテストは、すべての科目で共通です。英文 134-139 ページの内容をご覧ください。

(和訳詳細はピアノ用受検要項に掲載されています。)

検定において

検定員：

通常、検定員は一名ですが、研修目的の為、もう一人の検定員が立ち会う場合もあります。又、検定員の判断で、演奏を途中でとめる場合もあります。

チューニング：

グレード 1-5 までは、必要に応じて検定前に指導者、又は伴奏者がチューニングをしても良いことになっています。それ以外のグレードでは受検者自身がチューニングを行います。

譜面台：

検定会場には譜面台が用意されていますが、受検者は自身で持参することも出来ます。高さの調節などは検定員が手伝う場合もあります。

検定課題の順序：

検定はどの科目（課題曲、テクニック課題、初見演奏、オーラルテスト）からでも受検することが出来ます。通常、伴奏付きの課題曲は続けて演奏されます。

採点基準

英文 146-147 ページに採点基準一覧があります。各科目の評価は合格基準をもとに合格点からプラスあるいはマイナスしていくという採点方式で、満点からの減点でもなく、0点からの加点でもありません。採点にあたって検定員は、一覧に挙げられた項目を通してみられる資質や能力を考慮して結果を出します。(詳しい和訳はピアノ要項に掲載されています。)

オーラル・テスト：全ての実技検定において実施されます

「聴くこと」は、良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で、聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができるのです。レッスンの中で、このようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル・テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

検定では

オーラル・テストは、実技検定の一部です。

オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価

いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。

実際どのようにオーラル・テストが行われるかについては、*Your guide to ABRSM music exams* を参照のこと。

聴音例題集

オーラル・テストの実例は、「聴音例題集」及び、「聴音指導書」を参考にしてください。これらは、日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障害を持つ受検者は、通常のオーラル・テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。

オーラル・テスト：グレード1

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。**2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分か**を答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション(スタッカート/レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート／レガート)、②テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を教えてください。
- B 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを教えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート／レガート)、テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）②調性(長調／短調)に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

- A 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。出題は、ハ(C)、へ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。

C1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

C2 C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

オーラル・テスト：グレード5

A 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。

C1 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。

C2 C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

オーラル・テスト：グレード6

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。

D1 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。

D2 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、**そのリズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4**のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

A 二声のフレーズが2回弾かれますので、**下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

B スコアを見て、**下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと**。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。

C1 フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。

C2 上記C1の終止形における**2つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下屬和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアン(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。

C3 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。

D1 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

D2 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、**そのリズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4** 或いは**6/8**のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード8

- A1** 三声のフレーズが2回弾かれますので、最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A2** 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、終止形を教えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)に限られません。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパーニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における3つの和音と転回形を教えてください。出題は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパーニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- B** スコアを見て、上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** 2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を教えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下屬調、平行調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて、検定員がヒントを与えることもあります。

ARSM (演奏)

ARSMは、2017年1月から実施される新しいディプロマです。年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。ここではG8とDipABRSMの橋渡しとして、演奏技術と、それに関連するテクニックを伸ばす機会が提供されるのです。受検者がレパートリーを広げ、リサイタルプログラムの構成を考える上にも役に立つでしょう。

ARSM の主な特徴

- ・ 以下の要領で受検者は、バランスのとれた、多彩なプログラムを演奏します。
 - ・ 演奏時間:30分
 - ・ このうち、少なくとも20分はディプロマの演奏レパートリーリストから選択
 - ・ 残りのプログラムは、グレード8と同じ、或いはそれ以上のレベルの曲を受検者が自由選択。
- ・ 楽曲演奏以外のテストはありません。
- ・ グレード実技検定と同じ時期に行われます。
- ・ ARSMは、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等書き加えることが可能です。

このARSMを受検するには、G8（又は代用資格）の事前取得が必要です。詳しくは www.abrsm.org/newdiploma を参照のこと。

DipABRSM / LRSM / FRSM (演奏)

これらのディプロマは、年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。その場での検定と、あらかじめ用意された論文／エッセイなどにより、音楽的な知識や理解に基づいた、受検者の演奏技術、コミュニケーション能力、研究能力などが示されます。全てのディプロマは次のレベル受検への必須条件となります。

主な特徴

- 受検者
 - リサイタルプログラムに基づく演奏
 - あらかじめ、プログラム ノート (DipABRSM および LRSM) 又は提出論文 (FRSM) を作成
 - リサイタルや、プログラムノート／提出論文の内容を中心としたヴィヴァ・ヴォーチェ(口頭試問)が行われます。
 - 短い無伴奏の初見曲：5分間の試弾ができます。(クイック スタディ)
 - これらのディプロマは所定の期間と会場で行われます。(訳註:日本ではグレード実技検定と同じ時期に行われます。)
 - これらを、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等の名前の後に書き加えることが可能です。

これらのディプロマを受検するには、各々のレベルでの事前取得が必要です。詳しくは www.abrsm.org/diploma を参照のこと

その他のディプロマ検定 これらのディプロマ検定は、楽器／声楽の指導、指揮法の領域でも行われます。詳しくは www.abrsm.org/diploma を参照のこと

音楽理論

演奏家、作曲家、一般聴衆が幅の広い音楽力を身につけるには、音楽語法を理解し、精通することが不可欠です。書かれている記号と、音楽の要素との関係を理解し、それを翻訳し、実際の音としてどの様に表すかを学ぶことによって、その音楽の持つ意味をより深く経験できるのです。又、記譜法の知識なしでは、クラシック音楽家がレパートリーを理解したり、アンサンブルをしたりすることが、困難となるでしょう。それどころか、記譜法が存在しなければ、作品が後の世に受け継がれていくことも不可能だったにちがいないかもしれません。その意味で音楽理論は演奏や作曲と綿密に結びついている、実用的な科目なのです。

ABRSM の音楽理論検定によって、学習者は：

- ・ 記号、用語など、西洋音楽の記譜法を理解し、
- ・ 音程、調性、スケール、和音など音楽の基本的な要素を理解し、
- ・ 均整のとれた、リズムパターンや、旋律或いは和声の構造を理解し、完成させることができ、
- ・ 理論の知識を理解し、楽譜の分析へと応用する事ができるのです。

次ページ以降の説明にあるように、受検者は、各グレードに準じて、音楽記号を自在に使い分けたり、音符の抜粋を完成させたり、音楽の要素に関する設問に答えることによって、能力を評価されます。

グレード 5 の事前取得

長年にわたる ABRSM の水準のひとつとして、グレード 6 以上の実技検定を受けるには、理論検定グレード 5 以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の理解が、不可欠だと考えるからです。（プラクティカル・ミュージシャンシップ、又はジャズのソロ演奏でのグレード 5 の取得もこの基準を満たすものとします。）

評価の仕方

理論検定は 100 点満点とし、66 点以上を合格、80 点以上を良、90 点以上を優とします。

過去の問題

ABRSM の理論検定で過去 5 年間に出题された問題は、代表事務局または、オンラインで購入できます。www.abrsm.org/publications 全グレードにおける 2009 年度版以降の過去問題には、模範解答も出版されています。

プラクティカル・ミュージシャンシップ

ミュージシャンシップという言葉は、音楽能力の分野を幅広く網羅する概念です。この要項の目的に沿って言えば、「音で考える」能力と言えるでしょう。この力は内なる想像力をもって音楽をする—聴いて、演奏したり、歌ったり、読譜をしたり、即興をしたり—場面で発揮されるのです。

ABRSMのプラクティカル・ミュージシャンシップは、受検者に「音で考えて」、自発的な演奏をする力をつける機会を与えます。ほかの実技検定が、前もって周到に準備された演奏力が中心となるのに比べ、ここでは、その場で聴いたり、読んだりしたものに対し、直ちに弾いたり、歌うことによって、反応することが求められています。

プラクティカル・ミュージシャンシップの検定は、グレード毎に、音楽家の為のバランスのとれた、以下のような基本的な技能を包括します。

- ・ 音楽を内なる耳で聴き、再生する。
- ・ 最小限の準備で、楽譜を読み解く。
- ・ 短いモチーフを、内在する可能性に基づいて、展開する。
- ・ 書かれた音楽と、実際に演奏されたものとの、相違点を見つける

これらの能力をつけることによって、学習者はレパートリー演奏に必要な音楽を理解し、解釈するなど、音楽の語彙力をみにつけることができます。

グレード5の事前取得

グレード6以上の実技検定を受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ 或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の十分な理解が、不可欠だと考えるからです。

楽器

プラクティカル・ミュージシャンシップの検定は、声楽および、実技検定の全ての楽器で受検できます。声楽での受検者は、検定の一部で楽器も使用します（ピアノもしくは選択した楽器）

検定では

以下の場合には、1分程度の予見時間が与えられます。

- ・ 初見視奏/視唱
- ・ 即興演奏（グレード4から）
- ・ 初見による移調奏
- ・ 通奏低音
- ・

歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を

配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1 オクターブ下げて歌うこともできます。

評価の仕方

検定員は個々の問題での出来よりも、全体を通して評価します。

- A 優
- B 良
- C 合格
- F 不合格

例題集

ABRSM のプラクティカル・ミュージシャンシップ 模範試験例題集及び、指導書は、代表事務局または、オンラインで、購入できます。 www.abrsm.org/publications